

平成 29 年度第 2 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録

日時：2017 年 9 月 19（火）11：50～12：50

場所：熊本大学黒髪北キャンパス 全学教育棟 A303

出席者：理事総数 17 名 出席理事 16 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	神取 秀樹	理事（副会長）	高田 彰二
理事（副会長）	野地 博行	理事	石島 秋彦
理事	内橋 貴之	理事	大上 雅史
理事	須藤 雄気	理事	諏訪 牧子
理事	豊島 陽子	理事	中井 孝尚
理事	西坂 崇之	理事	原田 慶恵
理事	坂内 博子	理事	光武 亜代理
理事	宮田 真人		

監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事 木寺 詔紀

監事 七田 芳則

オブザーバー：

邦文誌編集委員長	佐甲 靖志
欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	金城 玲
平成 29 年度年会実行委員長	山縣 ゆり子
平成 30 年度年会実行委員長	沈 健仁
平成 31 年度年会実行委員長	永井 健治

北海道支部	姚 閑
東北支部長	佐々木 一夫
関東支部長	由良 敬
中国四国支部長	永野 真吾
九州支部長	寺沢 宏明

陪席者：

会長室	神瀬 麻里子
学会事務局	向井 牧子

議長：代表理事（会長） 神取 秀樹  
議事録作成者：理事 坂内 博子

報告事項：

	資料番号
1. 平成 29 年度年会準備報告	(山縣) : 報 1
2. 平成 30 年度年会準備状況	(沈) : 報 2
3. 平成 31 年度年会準備状況	(永井) : 報 3
4. 平成 32 年度年会準備状況	(神取)
5. 出版委員会報告	
会誌編集委員会報告：総会スライド	(佐甲) : 報 5-1
BPPB編集委員会報告：総会スライド	(石渡) : 報 5-2
HP編集委員会報告	(金城) : 報 5-3
6. 男女共同参画・若手支援委員会報告：総会スライド	(高田) : 報 6
7. 科研費申請の準備状況	(石渡)
8. 賞・助成金推薦委員会報告	(高田) : 報 9
9. 地区報告	
北海道	
東北	
関東	
中部	
中国四国	
九州	

審議事項：

	資料番号
1. テレビ会議について	(神取)
2. IUPAB2023 招致の成功と WG について	(野地) : 議 2

## 報告事項

### 1. 定足数の確認 資料なし

理事会の審議に先立ち、議長 神取秀樹 氏より、定足数のご報告があった。

理事総数 17 名のうち出席者 16 名により過半数を超えた。

#### 定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

議長の選出、会長が議長を務める。

### 2. 平成 29 年度年会準備状況 資料報 1

平成 29 年度年会実行委員長 山縣 氏より、熊本年会の準備状況について報告があった。

- 演題・事前参加の登録状況について

演題・事前参加登録数は例年並であるとの報告があった。

- 名札について

学生の名札に「学生」と明記したとの報告があった。

- ランチョンセミナー、展示について、以下の報告があった

- ランチョンセミナーにも学生、実行委員がスタッフとして入った。
- 生物物理学会一斉メールにて、ランチョンセミナー・展示の広報を行った。
- 協賛企業ブーススタンプラリーを行った。
- コーヒーが一部無料になった。

- 年会収支予算案について、年会実行委員会における経費削減の取り組みが報告された。

- 市民講座に関して、100 人の会場に 70 人で参加者が多かった。その理由として、事前にチラシを 5000 部作成し、高校、街の図書館、公共施設に配布し、熊本市公営掲示板（約 20 か所）へのポスター掲示したことが考えられる。高校生は多くなかった。アルバイト以外の薬学部の学生、九州工大の実行委員等の学会員の参加もあった。

### 3. 平成 30 年度年会準備状況 資料報 2

平成 30 年度年会実行委員長 沈 氏より報告があった。

- 場所は岡山大学津島キャンパス、日程は 9 月 15 日（土）～17 日（月・祝）。

- 実行委員を決定した。

- 市民講演会は名古屋大学の天野浩氏に決定。天野氏のご都合から、2 日目の午後

に 50 周年記念館金光ホール（定員 400 人）にて行う。

- 収支計画：資料のとおり。交渉により、懇親会は地酒地ビール持ち込み可。
- 発表は一般口頭発表が中心。（600 件）ポスター300 件、シンポジウム 33 件の予定。
- 冊子体予稿集のサイズを A5 にする。数十万円の節約になる。広告インデックスのページも省略すれば節約になる。
- 協賛企業ブーススタンプラリーは継続する。

#### 4. 平成 31 年度年会準備状況 資料報 3

平成 31 年度年会実行委員長 永井 氏より報告があった。

- 高校生担当として、京都大学の吉村成弘氏を新たに実行委員に追加した。
- 場所は、沖縄コンベンションセンターか、宮崎シーガイアを予定。
- 開催候補日は 3 つ、関連学会と重ならないようにしてある。

2019 年 10 月 23 日（水）～25 日（金）	沖縄開催の場合
2019 年 9 月 23 日（月）～25 日（水）	宮崎開催の場合
2019 年 9 月 24 日（火）～26 日（木）	宮崎開催の場合
- 新しい試み
  - セッションの合間にスクリーンに映写する広告
  - 市民講座は廃止の方向であったが、熊本年会の入りを考慮して再考。
  - 市民講座の代わりに近辺の SHH に出前講義をし、生物物理学会のプレゼンスを効果的に示す。
- 予算について
  - 一般の参加費を 2000 円増額、学生は据え置き。
  - 岡山年会に引き続き、冊子体予稿集を A5 にする。アプリの廃止による支出削減（90 万円）。
  - 代わりに PDF にリンクを付けたデータを配布。
  - 企業の情報を QR コード化する。
- ランチョンでアンケートを書かない参加者がいる。企業に情報が提供されるように、

ランチョンセミナーはインターネットで事前申し込み制にする。

- 懇親会は屋外バーベキュー。

## 5. 平成 31 年度年会準備状況

神取 氏より東北または北関東（群馬）方面で行う予定であるとの報告があった。

## 6. 出版委員会報告 資料報 5

野地 氏より出版委員会について報告があった。

- 会誌編集委員会報告（佐甲氏より）

- 次期副編集委員長候補として、広島大学大学院数理生命理学専攻 富樫祐一氏が指名された。

⇒本理事会で承認した。

- 「生物物理」誌執筆要項改定に関する提案がなされた。

### 改定項目

#### V 記事の提案、1.記事の提案の仕方

#### 執筆候補者も原則として日本生物物理学会の会員とする

（原則として）を追加

現在非会員に記事を依頼することが多くなっているため、実情に合わせるために要項を改定する。

- BPPB 編集委員会報告（石渡氏より）

- 投稿数は例年と同じであり、伸びていない。
- 平成 29 年度国際情報発信強化(B)に応募したが、残念ながら不採択であった。平成 30 年度採択を目指し、永井氏を中心に再応募する。
- Impact Factor (IF) 取得のための試みとして、トムソンロイター社が付与する雑誌のパフォーマンスを示す指標 emerging sources citation index(ESCI) の取得を目指す。
- bioRxiv と BPPB の連動も、次回以降議論していく。

科研費（国際情報発信）に BioArxiv と BPPB の連動について書くために、次回の理事会より前に決定できないかとの意見があり、間に合いそうならばメール審議することになった。

なお、連動とは、bioRxiv から BPPB を選んで投稿ボタンを押すと BPPB に投稿したことになる仕組み。方針は早めに決定することが望ましい。

- 第 6 回 Biophysics and Physicobiology 論文賞を、川端猛氏に決定。受賞講演を

9月19日(火)12:50~よりA会場で、授賞式を懇親会で行う。

- 第4回 Biophysics and Physicobiology Editors' choice award の4論文を決定。授賞式を懇親会で行う。

● ホームページ委員会報告(金城氏より)

ホームページの更新の方針について、報告があった。

- 日本生物物理学会ホームページから、新学術領域「運動超分子が織りなす調和と多様性」のビデオ・アーカイブを生物物理学会に移管する方針が示された。
- また、今後は新学術領域のビデオ・アーカイブを、生物物理学会HPのムービーコンテンツとして整理する方針である。
- 新委員として、三重大大学の白井伸宙氏を選出した。メール会議あるいは次回の理事会での承認依頼があった。

6. 男女共同参画・若手支援委員会・男女共同参画学協会連絡会報告 資料報6

高田氏より以下の報告があった。

- 女子中高生夏の学校(2017年8月5~7日)において、若手の会と連携しポスター展示、パンフレット・クリアファイルの提供を行った。
- 第11回女子中高生のための関西科学塾(2017年3月25~26)に、クリアファイルを提供した。
- 第15回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム「ダイバーシティ推進における産学の取り組み」(東京大学本郷キャンパス、2017年10月14日)にて、ポスター発表とパネルディスカッションに参加する予定である。
- 若手奨励賞選考過程について。昨年より3名少ない計39名が応募。7月に1次審査、本年会にて2次審査、懇親会にて発表を行う。
- 学生発表賞は総数76名の応募があった。1日目の口頭発表で審査、懇親会開始前に掲示にて発表する。
- 年会2日目のランチョンセミナーにおいて、男女若手企画主宰のパネルディスカッションを開催。テーマは男女共同参画のミクロとマクロ。
- 若手奨励賞の規約を、応募資格を「報6」の通り改定を行う。4.理事会が若手奨励賞選考委員会を設置することを明記。「別に定める条件」にて、応募対象者を明記。学生発表賞についても同様の規定とする。

7. 科研費申請準備状況

石渡氏より、平成30年度科研費「国際情報発信強化(B)」への再応募に関する報告があった。永井氏を中心に、採択を目指して応募を行う。

## 8. 賞・助成金推薦委員会報告 資料報 9

高田 氏より、賞・助成金の推薦状況・採択状況に関する報告が行われた。

## 9. 地区報告

中国四国支部から、決算報告の資料の提出があった。

### 審議事項：

#### 1. テレビ会議システムの恒常的導入について

神取氏よりテレビ会議システムの導入について議題が提案された。旅費の節約のためにも学会専用のテレビ会議システムの構築が望ましい。しかし今年度は当面、大阪大学のテレビ会議システムを利用させていただく。

また、今回の理事は関東・関西の方が多。各支部長もオブザーバーとしてテレビ会議に出席していただきたい。

テレビ会議の継続とその方法について、承認された。

#### 2. IUPAB2023 招致成功の報告と WG について

野地 氏より 2023 年度 IUPAB の報告と、提案があった。

- IUPAB2017 (第 19 回) エジンバラ大会において、2023 年大会の日本招致が決定したとの報告があった。
- IUPAB2017 の概要について、IUPAB 総会における選挙結果と新幹部構成について資料の提出があった (資料 1)。
- IUPAB 誘致活動の詳細については、資料の提出があった (資料 2)。より詳細な説明は、第 4 回会員総会シンポジウム (2017 年 9 月 20 日) において行う。
- 招致活動に関する収支が、資料 2 で報告された。
- 今後の準備体制作りについて、野地氏より提案があった。

第一段階：国際担当の委員会を決める (国際的戦略を決める、理事会直結の委員会)

第二段階：3 年まえまでをめぐりに、IUPAB ワーキンググループを設置し、オーガナイズ  
ングコミッティを決定。

ワーキンググループの設置を、本理事会で承認した。

その他

特になし。

### 連絡事項：

次回理事会日程について

平成 29 年度第 3 回理事会

2017年12月16日(土)  
テレビ会議システムにて

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は12:50に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成29年9月19日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成29年度第2回理事会

代表理事 神 取 秀 樹 (印)

監事 木 寺 詔 紀 (印)

監事 七 田 芳 則 (印)